

重点推進方策Ⅳ

地域ぐるみで守る、二つのアルプスに囲まれた快適な農村環境 農村環境の維持と中山間地域の活性化

鳥獣被害対策技術の導入

<中山間地域農業ルネッサンス推進事業>

■背景とねらい

近年、上伊那地域では野生鳥獣による農産物被害が増加し、生産者の意欲が低下している。そこで、特に被害が激しい果樹栽培ほ場において、獣害対策電気柵の実証展示を実施した。

■本年度の取組と成果

1 取組内容

(1) 試験ほ場における調査(駒ヶ根市)

令和5年7月から11月にかけて、駒ヶ根市中沢のぶどうほ場(品種:ナガノパープル、シャインマスカット等)にサル対策用電気柵の展示ほ場を設置した。週に1度ほ場を巡回し、電気柵の管理状況とセンサーカメラの記録を確認した。

(2) 地域への情報提供

電気柵の設置に合わせ、管内のぶどう農家などを集め現地検討会を開催し、加害獣の生態や電気柵の設置事例などについて情報提供した。

2 活動成果

設置ほ場はサルによるぶどうの食害が懸念されていたが、電気柵設置以降、ほ場内への侵入を抑制し、被害をゼロに抑えることができた。

現地検討会には、鳥獣被害を受けている果樹農家4名が参加し、電気柵導入および技術普及に向け有益な情報提供・交換ができた。



写真1 現地検討会での情報提供の様子

■今後の課題と対応

次年度は、他地域へ新たに電気柵実証展示ほを設置し、電気柵の効果と維持管理方法を周知するとともに、生産者の防護意識を啓発する。

(地域第二係 増澤)

緊急要請への対応

■背景とねらい

宮田村役場農政係担当より、村内の野菜栽培ほ場にシカが出没し食害しているとの情報提供を受け、園主に状況を聞くとともに現地ほ場を確認した。対象ほ場は両側を林に挟まれており、獣害が多発している地域であると考えられたことから、緊急で電気柵を設置することとした。

■本年度の取組と成果

1 取組内容

(1) 電気柵の設置とモニタリング

令和5年9月に目撃情報が多いシカを対象とした電気柵を設置し、併せて、センサーカメラの設置と定期的な巡回、状況確認を行った。

また、電気柵を初めて扱う者が多かったため、設置に合わせ講習会を開催し、電気柵の仕組みと効果、設置および管理上の注意点などについて情報提供した。

2 活動成果

電気柵設置後も野生鳥獣の目撃情報はあったが、ほ場に侵入されることなく野菜を収穫することができた。また、「電気柵を設置することで農作業中やほ場外にいる時も安心感を得ることができた」との感想を頂いた。



写真1 野菜ほ場に設置した電気柵の様子

■今後の課題と対応

野生鳥獣の個体数増加や生息域拡大に伴い、今後も緊急的な電気柵設置要請が見込まれるため、資材の確保や設置要員の手配など、迅速に行えるよう体制を整備する。(地域第二係 増澤)

ソバ新品種導入による中山間地域の活性化

■背景とねらい

辰野町川島地区では、ソバの収量・品質向上とブランド化を目的に川島地区営農ソバプロジェクトとして活動を行っている。しかし、他産地との差別化が課題であり、独自性を出す1つの手段として新品種の導入を検討するため、「長野S11号(信州ひすいそば)」(以下ひすいそば)の栽培実証試験を行ってきた。昨年度は、対照区と試験区との種密度が異なったことから、収量の明確な比較ができなかった。

そこで、今年度は再度ひすいそばの栽培実証試験及び食味検討会を実施し、現地適正の把握及びブランド化の方針について検討を行った。また、栽培技術の向上に向けた勉強会を実施した。

■本年度の取組と成果

1 活動の取組み

(1) ひすいそば栽培試験

ひすいそば展示ほ(7a)を設置し、対照区である信濃1号と共に7/28に5kg/10aは種した。倒伏程度や黒化率の調査、生育・収量調査を行い、ひすいそばの現地適正の検討を行った。

(2) 勉強会

ア 秋ソバは種に向けた勉強会

7月に秋ソバは種に向けた勉強会が開催され、ひすいそば栽培試験について、土壌診断結果や、施肥設計について説明を行い、各営農組合の今年の計画を発表しあい、情報交換を図った。

イ 秋ソバ刈り取り適期講習会

9月に秋ソバ刈り取り適期講習会を開催支援し、各営農組合のほ場、ひすいそば栽培試験ほ場の巡回を行った。各営農組合代表による栽培管理状況の説明後、ほ場の生育状況を見ながら、作柄や刈り取り適期について指導し、コンバインの稼働計画を検討した。

(3) 食味検討会

2月に食味検討会が開催され、ひすいそば栽培試験結果、次年度施肥設計案、次年度以降の方針について説明した。

2 活動の成果

(1) 信州ひすいそば「長野S11号」栽培試験

生育調査では、草丈については同程度、第1次分枝数はひすいそばが多く、倒伏程度は共に微だった。成熟期は、「信濃1号」が9月30日なのに対し、ひすいそばが10月5日であった。坪刈り収量では「信濃1号」が高かった(表)ものの、収穫時の収量は体感としてひすいそばの方が高かったとの意見も出された。

表 ひすいそば収量調査結果(㎡当たり)

試験区：ひすいそば(長野S11号)				
	全重(g)	子実重(g)	茎重(g)	千粒重(g)
平均	462.0	132.0	330.0	32.9

対照区：信濃1号				
	全重(g)	子実重(g)	茎重(g)	千粒重(g)
平均	385.0	163.0	222.0	27.9

(2) 次年度取組み方針

役員及び事務局員での話し合いの中で、収穫期が適しているというメリットがある一方で、ひすいそばは地域内での販売先が見つからなかったことや乾燥調製施設利用の最低ロットに満たないこと、地域で主流の「信濃1号」との交雑の問題が出され、ひすいそばの導入を見送ることに決まった。

また、辰野町では今年度「有機農業推進のまち」宣言を出したことを踏まえ、次年度の取組み方針を“品種の切り替え”から“有機栽培”としていくことに決まった。

次年度の施肥については、今年度の土壌診断結果を基とし、鶏ふんに加え、不足している栄養素は有機質資材を用いて補っていく計画とした。

■今後の課題と対応

有機栽培へ順次切り替えていくにあたり、現地での理解と収量確保が課題である。次年度は川島地区内5地点にて有機栽培の展示ほ場の設置、検討会を通して有機栽培への切り替えについて検討を行っていきたい。

(地域第一係 濱)